



令和7年

第79回 国民スポーツ大会

わたSHIGA輝く 国スポ2025

秋田県選手団 競技結果



レスリング競技 成年男子グレコローマンスタイル77kg級
根庭 功大



ローイング競技 少年女子シングルスカル
小松 佳



ラグビーフットボール競技 成年男子チーム

わたSHIGA輝く 国スポ2025 優勝者インタビュー

2 連覇おめでとう !!

2 年連続 3 度目

レスリング競技 成年男子
グレコローマンスタイル77kg級
さくらば こうだい
櫻庭 功大 選手
(自衛隊体育学校)



1 「わたSHIGA輝く国スポ2025」に向けて重点的に取り組んできたこと

国スポに向けて6月に行われた明治杯の課題として前にプレッシャーをかけ続けること、相手より先に攻めて相手が有利な展開に持ち込ませないことを意識して取り組んできました。またグラウンドの展開でも攻めでは必ず得点を取る、守りでは必ず得点をやらないことを意識して取り組みました。

2 「わたSHIGA輝く国スポ2025」を振り返って

優勝することができ、また秋田県に貢献することができて嬉しく思います。しかし、この大会に向けて取り組んできたことがあまり出せなかったので少し悔しい気持ちです。この国スポで得られた経験、課題をしっかり自分の糧にして次の大会に向けて頑張っていきたいと思います。

3 キャリアの中で学んだ教訓、心掛けていること

選手を続けていく中でいつも指導、応援、支援してくださっている方々のおかげで、選手を続けられていると思っています。その方々に感謝の気持ちを持って練習に取り組まなければいけないし、感謝を伝えるための一つの方法として全力で試合をして結果を残していくこと、最後まで諦めずに試合をすることを心掛けています。

4 秋田の子どもたちへ、スポーツ・自競技の魅力を伝えてください

レスリングだけではなくスポーツ全体で言えることではあるのですが、私はレスリングを通じて礼儀や感謝の気持ち、そしてリスペクトを持つことなどたくさんのことを教えていただきました。挨拶やありがとうなどの感謝の気持ちを伝えること、敬意を持って接することをとても大事にしています。秋田県を盛り上げていきましょう！

優勝おめでとう！

ローイング競技 少年女子
シングルスカル
こまつ あき
小松 煌 選手
(本荘高校)



1 「わたSHIGA輝く国スポ2025」に向けて重点的に取り組んできたこと

春の全国大会からU19の国際大会にかけ、2000mレースの後半からスピードを伸ばしていくことが得意になり、スタートからのスプリント力が足りないことが課題となっていました。国スポは1000mのレースになるので短い距離で自分自身の力を出し切ることや、スタートからゴールまで速いリズムで漕ぎ通すことを目標に、練習の中で艇のスピードを追求し続け練習を積み重ねました。

2 「わたSHIGA輝く国スポ2025」を振り返って

SAGA2024国スポでは少年女子ダブルスカルに出場し、準優勝という結果でした。自分のミスにより、優勝を逃してしまい、先輩と優勝することができなかったことに悔しい気持ちでいっぱいでした。だからこそ、今年の国スポ優勝にける思いはとても強く持っていました。U19日本代表選手としてのプレッシャーもありましたが、一番はレースを全力で楽しむことを大切にしました。去年のリベンジができたことや応援してくださった方々に優勝を報告できたことをとても嬉しく思っています。

3 キャリアの中で学んだ教訓、心掛けていること

私は競技に取り組むうえで、感謝の気持ちを忘れないことを心がけています。優勝できたのは支えてくださる先生、コーチ、家族、そして、応援してくださったたくさんの方々のおかげです。またこの大会に限らず、この競技を全力で楽しみ、取り組むことができているのも支えてくださっているの方々のおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず、たくさんの方々に恩返しできるように一生懸命頑張ります。

4 スポーツ・自競技の魅力を教えてください

ローイング競技は様々な種目があり、人数が増えるほど艇のスピード感や迫力が変わってきます。一人乗りにおいても、様々な技術によって生まれる艇のスピード感はとても魅力的です。複数人で漕ぐ種目では、動きやタイミングなどがぴったり合ったときの一体感は漕いでいる側も観ている側も楽しむことができると思います。また、練習を積み重ね、勝利を勝ち取ったときの喜びはこれまでの努力が形となって実感できる特別な瞬間です。水面を進む爽快感と、仲間との絆が生み出す達成感が、ローイングの大きな魅力だと思います。

優勝おめでとう！

ラグビーフットボール競技

成年男子 7人制

はしもと けん
橋本 憲 選手兼監督

(ハシケンラグビー教室 代表)



1 「わたSHIGA輝く国スポ2025」に向けて重点的に取り組んできたこと

私たちが最も重視したのは“根性”です。セブンズは根性のスポーツであり、細部へのこだわりが勝敗を分けます。指先まで神経を尖らせたプレーや試合中の緻密なコミュニケーションは、根性がなければ成立しません。秋田7'sの選手たちは、1年間、狂氣的とも言えるほどの根性をむき出しにして練習を重ねました。その結果、他に類を見ない結束力を得ることができ、自分たちのやるべきことに集中し続けたことで、日本一の“根性”を証明できたと確信しています。

2 「わたSHIGA輝く国スポ2025」を振り返って

大会期間中は常に緊張感があり、秋田7'sとして非常に価値ある経験となりました。この成果は一過性のものではなく、来年以降も継続・再現すべきものです。新たなメンバーが加わるならば、この文化と覚悟をしっかりと伝えていきたいと思います。私たちは日本一のチームです。これからは常勝軍団として、秋田、そして東北のラグビーを変えていく使命があります。日本の男子セブンズはまだ発展途上です。しかし、その未来を秋田が体現したと信じています。



3 キャリアの中で学んだ教訓、心掛けていること

私がこの1年で学んだ教訓は「強気に決める」ことです。ゲームメーカーとして、プレーの選択や得点の場面で迷わず決断する力が求められます。しかし、今回の大会ではその部分において自分の根性がまだ足りなかったと痛感しました。今後さらに経験を積み、絶対的なゲームメーカーとして、どんな場面でも「強気に決める」ことができるよう、日々の練習を続けていきます。

4 秋田の子どもたちへ、スポーツ・自競技の魅力を伝えてください

セブンズラグビーは、15人制とはまったく異なる魅力を持つ競技です。スピード感があり、ラグビーを知らない人でも楽しめる分かりやすさがあります。そして何より、1人のスター選手だけでは勝てないのがセブンズです。私たちは無名の集団でしたが、それでも全国優勝できました。大学や社会人から始めた選手もいます。それでも勝てたのは“根性”があったからです。セブンズの魅力は、根性がすべてを可能にするところにあります。



【小松選手】



【櫻庭選手(上)】



第79回国民スポーツ大会 本大会 入賞一覧

【会期前①】 令和7年9月6日(土)～9月15日(月) 滋賀県

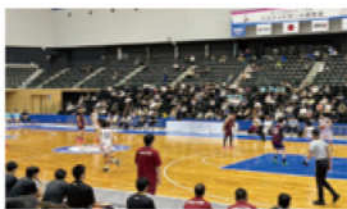
【会期前②】 令和7年9月21日(日)～9月25日(木) 滋賀県、京都府

【本会期】 令和7年9月28日(日)～10月8日(水) 滋賀県、兵庫県、大阪府

〈入賞者一覧〉

入賞数：28(昨年27)

順位	点数	競技名	種別	種目	氏名	所属
1位	40	ラグビーフットボール	成年男子			チーム秋田
	8	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル77kg級	櫻庭 功大	自衛隊体育学校
	8	ローイング	少年女子	シングルスカル	小松 煌	本荘高校
2位	35	バスケットボール	成年男子			チーム秋田
3位	6	カヌーSL/WW	成年男子	スラローム・カナディアンシングル(25G)	佐々木将汰	万六建設(株)
	6	カヌーSL/WW	成年男子	スラローム・カナディアンシングル(15G)	佐々木将汰	万六建設(株)
	30	バレーボール(6人制)	少年男子			チーム秋田
	5.5	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル65kg級	佐々木瑞樹	秋田商業高校
4位	6	ライフル射撃	少年女子	ビーム・ピストル(60発)	三浦 寿花	秋田高校
	5	ウエイトリフティング	少年男子	102kg級クリーン&ジャーク	沢田石柚介	金足農業高校
	4	水泳(競泳)	成年女子	自由形100m	高橋 凜	筑波大学
5位	2.5	レスリング	女子	フリースタイル62kg級	岩澤 希羽	秋田ノーザンハピネッツ(株)
	2.5	レスリング	少年男子	フリースタイル55kg級	門間 秋翔	秋田商業高校
	2.5	レスリング	少年男子	フリースタイル92kg級	桑島 壮平	秋田高校
	2.5	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル71kg級	嶋田 悠大	秋田商業高校
	4	馬術	少年男子	自由演技馬場馬術	藤原 駿	横手高校
6位	3	水泳(競泳)	成年女子	自由形50m	高橋 凜	筑波大学
	3	馬術	少年	馬場馬術	藤原 駿	横手高校
	9	フェンシング	少年女子	フルーレ		チーム秋田
7位	2	ウエイトリフティング	少年男子	102kg級スナッチ	沢田石柚介	金足農業高校
	2	陸上競技	少年女子A	300mH	岡本 花	秋田中央高校
8位	1	カヌーSL/WW	成年男子	スラローム・カヤックシングル(15G)	三島 遊	万六建設(株)
	3	フェンシング	成年女子	フルーレ		チーム秋田
	3	フェンシング	成年女子	エペ		チーム秋田
	1	自転車	男子B	スプリント	高橋 康晟	大曲農業高校
	1	ウエイトリフティング	少年男子	55kg級スナッチ	深井 陽登	金足農業高校
	1	ウエイトリフティング	少年男子	55kg級クリーン&ジャーク	深井 陽登	金足農業高校
	1	ライフル射撃	少年男子	10mエア・ライフル(60発)	渡邊 結翔	秋田工業高校



バスケットボール 成年男子



ウエイトリフティング 成年男子



相撲 成年男子



フェンシング 成年男子



陸上競技 少年女子A



バレーボール 少年男子



ライフル射撃 少年女子



剣道 成年男子



水泳(競泳) 少年男子A

第79回国民スポーツ大会 成績と前年度比較

●第79回国スポ 総得点 289.5点 + 参加点400点 = 689.5点
●第78回国スポ 総得点 284.0点 + 参加点400点 = 684.0点

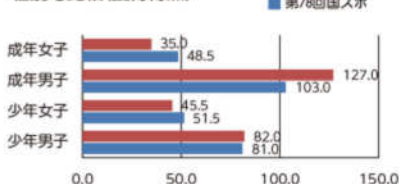
	冬季国スポ	本国スポ	天皇杯得点	天皇杯順位	皇后杯得点	皇后杯順位
第79回	122.0点	567.5点	689.5点	45位	420.5点	45位
第78回	140.5点	543.5点	684.0点	45位	450.0点	42位

【第79回国スポ 総合成績】

【第78回・第79回 得点一覧比較】

天 皇 杯 (男女総合得点)			皇 后 杯 (女子総合得点)		
県名	順位	得点	県名	順位	得点
滋賀	1	2,488.00	滋賀	1	1,244.50
東京	2	2,354.33	東京	2	1,128.33
京都	3	1,730.50	京都	3	986.00
大阪	4	1,658.00	愛知	4	977.33
愛知	5	1,598.83	大阪	5	909.00
神奈川	6	1,505.50	兵庫	6	861.00
埼玉	7	1,451.00	千葉	7	790.00
千葉	8	1,450.50	神奈川	8	790.00
福岡	9	1,442.50	岐阜	9	784.00
兵庫	10	1,338.00	福岡	10	739.50
北海道	11	1,334.00	埼玉	11	733.50
岐阜	12	1,298.00	福井	12	706.50
佐賀	13	1,279.50	長野	13	685.83
福井	14	1,278.50	青森	14	666.00
三重	15	1,138.00	広島	15	662.50
静岡	16	1,108.50	佐賀	16	659.50
愛媛	17	1,107.00	岡山	17	635.00
広島	18	1,076.50	北海道	18	625.00
長野	19	1,075.33	熊本	19	622.50
岡山	20	1,040.50	愛媛	20	619.00
栃木	21	1,029.50	三重	21	603.00
鹿児島	22	1,010.00	奈良	22	602.00
青森	23	975.50	宮城	23	593.50
奈良	24	955.50	静岡	24	588.50
大分	25	930.00	栃木	25	584.00
福島	26	922.00	香川	26	572.00
熊本	27	921.50	鳥取	27	567.50
長崎	28	907.50	大分	28	565.50
新潟	29	901.00	山口	29	563.50
香川	30	898.50	山形	30	542.50
宮崎	31	891.50	新潟	31	542.00
石川	32	889.00	山梨	32	522.50
宮城	33	888.00	宮崎	33	519.50
鳥取	34	859.00	鹿児島	34	519.00
群馬	35	853.50	茨城	35	517.00
山梨	36	829.50	富山	36	513.50
茨城	37	822.00	福島	37	512.50
和歌山	38	795.50	群馬	38	512.50
山口	39	793.00	島根	39	502.00
富山	40	790.00	和歌山	40	494.50
岩手	41	779.00	長崎	41	489.00
山形	42	767.00	沖縄	42	475.00
沖縄	43	746.00	岩手	43	461.50
島根	44	720.00	石川	44	459.00
秋田	45	689.50	秋田	45	420.50
高知	46	670.00	高知	46	416.50
徳島	47	602.50	徳島	47	396.50

種別毎比較(獲得得点)



競 技 名	令和6年 第78回 (佐賀)					令和7年 第79回 (滋賀)				
	獲得得点					獲得得点				
	少年		成年		合計	少年		成年		合計
	男	女	男	女		男	女	男	女	
スケート (スピード)	6.0	—	—	—	6.0	4.0	—	0.0	—	4.0
スケート (フィギュア)	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
アイスホッケー	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
スキー	38.5	21.5	20.0	24.5	104.5	17.0	20.5	31.0	19.5	88.0
陸上競技	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0
水泳 (競泳)	13.0	7.0	0.0	—	20.0	0.0	0.0	0.0	7.0	7.0
水泳 (水球)	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
水泳 (OWS)	—	—	0.0	—	0.0	—	—	0.0	—	0.0
水泳 (飛込)	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
水泳 (ATS)	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
サッカー	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
テニス	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0
ローイング	—	21.0	0.0	0.0	21.0	0.0	8.0	0.0	0.0	8.0
ホッケー	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
ボクシング	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
バレーボール	0.0	—	—	—	0.0	30.0	—	—	—	30.0
ビーチバレーボール	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
体操 (競技)	—	—	—	—	0.0	0.0	—	—	—	0.0
体操 (新体操)	—	0.0	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
トランポリン	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
バスケットボール	—	0.0	35.0	—	35.0	—	0.0	35.0	0.0	35.0
レスリング	10.5	—	10.5	—	21.0	13.0	—	8.0	2.5	23.5
セーリング	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウエイトリフティング	4.0	—	0.0	—	4.0	9.0	—	0.0	—	9.0
ハンドボール	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
自転車	0.0	—	0.0	0.0	0.0	1.0	—	0.0	0.0	1.0
ソフトテニス	—	—	0.0	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0
卓球	—	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0
軟式野球	—	—	0.0	—	0.0	—	—	0.0	—	0.0
相撲	0.0	—	7.5	—	7.5	0.0	—	0.0	—	0.0
馬術	2.0	—	0.0	—	2.0	7.0	—	—	—	7.0
フェンシング	3.0	0.0	0.0	9.0	12.0	0.0	9.0	0.0	6.0	15.0
柔道	0.0	—	—	—	0.0	—	—	—	0.0	0.0
ソフトボール	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
バドミントン	—	—	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0
弓道	—	—	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0
ライフル射撃	4.0	1.0	1.0	0.0	6.0	1.0	6.0	0.0	—	7.0
剣道	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
ラグビーフットボール	—	—	—	—	0.0	0.0	—	40.0	—	40.0
スポーツクライミング	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	—	—	0.0
カヌー (SL・WW)	—	—	11.0	14.0	25.0	—	—	13.0	—	13.0
カヌー (SP)	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
アーチェリー	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0
空手道	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
銃剣道	—	—	0.0	—	0.0	—	—	0.0	—	0.0
フレー射撃	—	—	18.0	—	18.0	—	—	—	—	0.0
なぎなた	—	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	0.0
ボウリング	—	—	—	0.0	0.0	—	—	—	0.0	0.0
ゴルフ	—	—	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0
トライアスロン	—	—	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0
小 計	81.0	51.5	103.0	48.5	284.0	82.0	45.5	127.0	35.0	289.5
得点割合 (%)	28.5	18.1	36.3	17.1		28.3	15.7	43.9	12.1	
少年・成年別得点	132.5	151.5				127.5	162.0			
同 割合 (%)	46.7	53.3				44.0	56.0			
男・女別得点	184.0	100.0				209.0	80.5			
同 割合 (%)	64.8	35.2				72.2	27.8			
天皇杯得点・順位	684.0点 45位					689.5点 45位				
皇后杯得点・順位	450.0点 42位					420.5点 45位				

得点
獲得
団体
14

得点
獲得
団体
15

国スポ戦略ミーティング・第79回国民スポーツ大会秋田県選手団報告会

令和7年10月29日(水) ANAクラウンプラザホテル秋田

10月29日、ANAクラウンプラザホテル秋田にて「国スポ戦略ミーティング」を開催し、30競技団体から約60名が参加した。今回は、昨年の立食形式から着席形式に変更し、落ち着いた雰囲気の中で意見を交わせる場とした。テーマは「横のつながり」。コーディネーターにはシャバ駄馬男氏を迎え、軽快なトークで場を和ませながら、各団体の率直な現状や課題を引き出し、活発な情報交換が行われた。今回のミーティング後に実施したアンケートでは、「学びはあったが協力関係が生まれるまでは至っていない」という回答が一定数見られた一方で、「他競技の考え方や取り組みが参考になった」「共通する課題があった」といった声もあり、団体間の現状共有が図られた。また、連携してみたい競技として具体的な競技名を挙げた団体や、「動きの特徴が似ている競技とは協力できそう」といった前向きな意見もあるなど、互いに興味や関心が無いわけではなく、相互に協力し合う可能性を見出した団体も少なくなかった。

しかし、実際に合同事業へ踏み出すことに対し課題が先行し、「スケジュール調整が難しい」「指導者・スタッフの不足」「資金や会場の確保が難しい」といった障壁が多数挙げられた。こうしたことから、早期の合同練習や協働の事業といった具体的な取り組みを実現するには二の足を踏んでいる様子であった。それでも、少数ながら「来年度以降、合同の事業を前向きに検討したい」と明確に意欲を示した団体もあり、そうした団体には今後の広がりを期待したい。

今回のミーティングが、すぐに新たな連携事業を生む段階には至らずとも、互いの実情を知り、横のつながりを意識するきっかけとなり、これからの時代の新たな取り組みの在り方を模索するその土台となれば幸いである。他の団体と親密に交流を図れるこの機会を活用し、限りある資源・財源の有効な生かし方を見出し、ハイブリッドな取り組みを創出することを今後も期待したい。



戦略ミーティングに続いて開催された報告会は、大会を振り返るだけでなく、秋田の競技力向上に向けた意識の高揚を図る場となり、来年度以降の取り組みへの期待が高まる会となった。

冒頭では、本会会長の鶴田有司団長より、今大会に出場した選手、そして日頃から支えてきた指導者・関係者への労いと感謝が述べられた。また、多くの方々の協力によって今大会を戦い抜くことができたこと、そして来年度に向け一層の応援と支援をお願いしたいというメッセージが伝えられた。続く本会副会長の田口将総監督の総括では、まず、夏のインターハイでは入賞数3と2010年以来もっとも厳しい状況であったが、各団体の粘り強い取り組みにより、31競技が東北予選を勝ち抜き本戦への出場権を獲得したこと、さらに、出場選手数も増加した点について高く評価できるとした。競泳、自転車などでの手堅い入賞や、少年男子バレーボールの24年ぶりの3位入賞をはじめ、フェンシングの粘り強い戦い、レスリングでの櫻庭選手の2連覇とそれがチーム全体に与えた好影響など、日々の取り組みが形になった例を多く挙げ、各団体における「選手とスタッフが一体となって挑む姿勢」が印象深い成果として紹介された。さらに、多くの団体で“あと一歩”の戦いが見られたことに対して前向きな評価が出来るとし、「今年の大会には昨年とは違う手応えがあった」と振り返った。一方で、バドミントン、バスケットボール、軟式野球では悔しい結果が続いたことにも触れ、「勝ちきる力の底上げ」が今後の大きなテーマであると指摘した。また、競技団体の指導者・役員自身が積極的に現場に足を運び、選手を直接支える姿勢の大切さについても言及し、「現場の空気に触れることで指導の視点も変わる」という強いメッセージが伝えられた。

総括の最後には、「ノーアタック・ノーチャンス」という言葉を用いながら、積極的にチャレンジし続ける姿勢の重要性が強調され、冬季競技を皮切りに始まる第80回大会シーズンに向けて「厳しい状況でも必ず成長の余地はある。一つひとつ積み上げていこう。」という力強い言葉で締めくくられた。

